

みなさんは「療育」という言葉を聞いたことがあるだろうか。発達に特性がある子たち、一人ひとりの育ち方に合ったサポートをしてくれる場所。それが療育施設だ。例えば、友達と遊ぶときのルールを学んだり、集中して物事に取り組む練習をしたり。私の妹は、週に何回かその療育施設に通っている。

一度、母と一緒に療育施設での妹の様子を見に行ったことがある。先生や友達と楽しそうに活動している妹の姿を見て、この場所があって良かったと思った。後日、母が「療育には税金が使われているんだよ。」と教えてくれた。妹は三年ほど前から療育に通っているが、税金が使われていると知ったのはこのとき初めてだった。

調べてみると、妹に通っている療育施設は「児童発達支援」や「放課後デイサービス」と呼ばれている福祉施設だった。今年から小学生になった妹の利用料は、九割が税金で賄われていて、保護者が負担するのは一割で済むそうだ。幼稚園の頃は無償化制度により、利用料は全額税金で賄われていた。

妹の療育施設が、こんなにも税金に支えられているなんて。驚いたとともに、税金について今一度考えるようになった。学校の教科書や給食、風邪をひいたときに行く病院、小さい頃よく行った図書館や公園。考えてみると、税金に支えられているのは妹だけでなく私も同じだ。税金は誰かの未来を支えている。だから、妹も笑顔で過ごすことができているのだ。また、妹のようにサポートが必要な人一人ひとりに合わせた支援ができるように、税金は見えないところでも働いている。どんな人でも安心して生活できる社会をつくっているのが税金だ。税金を納めることで、私たちのより良い暮らしが支えられるのはもちろん、巡り巡って「多様性を認めること」にも繋がっている。一人ひとりの個性が尊重される今の時代だからこそ、その思いが税金の使い道にも込められているのではないだろうか。

最近は、「税が高すぎる」「減税するべきだ」という声をよく耳にする。しかし、本当にそれで終わらせていいのだろうか。誰だって、何度も税金に助けられているはずだ。私は、今まで生きてきた十五年間でたくさんの税金に支えられてきた。これからも、税金に支えられることが多々あるだろう。税金に支えられてきた分、妹たちの笑顔をつくってくれた分、大人になったら「税金は誰かを支えている」という意識で、社会に恩返しをしていきたい。そして、誰もが安心して暮らせる税金の使い道を考え、今度は私が支える人になりたい。